様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 １２ 日現在

機関番号：３４４１４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2017
課題番号：２６３７０９０６

研究課題名（和文）古墳時代中期・畿内中枢地域における埴輪生産組織論の新視角と再構築

研究課題名（英文）A New Perspective and Reconstruction of the Archaeological Research on the Haniwa Production System within the Kinai Area in the Middle Kofun Period

研究代表者
犬木　努（Inuki, Tsutomu）

大阪大谷大学・文学部・教授

研究者番号：４０２７０４１７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：古墳時代中期・畿内中枢地域における事例として、京都府城陽市・久津川古墳群出土埴輪、和歌山県和歌山市・平井埴輪窯跡出土埴輪、奈良県奈良市・コナベ古墳出土埴輪の調査研究を行い、その基礎資料作成を行うとともに、埴輪生産組織の考古学的検討を行った。特に、久津川古墳群出土埴輪のうち、青塚古墳出土埴輪については全ての個体を実測するとともに、埴輪工人レベルで埴輪生産組織の解明を行った。また同じく、梶塚古墳出土埴輪については、ほぼ半数の個体を実測するとともに、埴輪生産組織解明に必要な基礎的作業を行った。以上を通じて、当該期・当該地域の埴輪生産組織の実態解明に必要な基礎調査・基礎分析を行うことができた。

研究成果の概要（英文）：In this research, I investigated Haniwa figurines excavated from Kutsukawa Tumuly in the kyoto Prefecture, Haniwa figurines excavated from Hirai kiln site in the Wakayama Prefecture and Haniwa figurines excavated from Konabe Tumulus in the Nara Prefecture. Through these investigation, I presented foundamental data on the Haniwa production system within the Kinai Area in the Middle Kofun Period.

研究分野：日本考古学

キーワード：古墳　前方後円墳　埴輪　工人　同工品　久津川古墳群　手工業生産　ハケメ工具

１．研究開始当初の背景

近年の埴輪研究において、同工品論と呼称される研究手法は広く定着しつつあったが、時代としては古墳時代後期、地域としては関東地方の研究が主体であり、古墳時代中期・畿内中枢地域における同種の分析事例および研究はほとんど見られない状況であった。

２．研究の目的

前項で述べたような研究状況を鑑み、古墳時代中期・畿内中枢地域における埴輪生産組織の解明を行うことを目的とする。

具体的には、古墳時代中期・畿内中枢地域におけるいくつかの古墳群を取り上げ、出土埴輪の悉皆的な分析を行うものとする。

３．研究の方法

今回、古墳時代中期・畿内中枢地域において、主要な分析対象としたのは、京都府城陽市久津川古墳群出土埴輪（梶塚古墳、車塚古墳、芭蕉塚古墳、山道東古墳、梶塚古墳など）［城陽市教育委員会所蔵］、和歌山県和歌山市平井埴輪窯跡［和歌山県教育委員会所蔵］、奈良県奈良市コナベ古墳出土埴輪［宮内庁書陵部所蔵］である。

各古墳とも、すでに各機関から発掘調査報告書が刊行されているが、埴輪についての記述や図面・写真などの情報提示が不十分であるため、全ての出土埴輪について悉皆調査を行うものとした。

具体的には、全体写真撮影、細部写真撮影（ハケメ、突帯、透孔など）、観察、計測、採拓などを行うとともに、可能なものについては蛍光Ｘ線分析用の試料採取を行い、三辻利一氏の協力・指導のもと、蛍光Ｘ線分析を実施した。

４．研究成果

本研究を通じて、古墳時代中期・畿内中枢地域における事例として、京都府久津川古墳群出土埴輪、和歌山県平井埴輪窯跡出土埴輪、奈良県コナベ古墳出土埴輪の基礎的検討および資料化を進めることができた。

平井埴輪窯跡出土埴輪については、和歌山県教育委員会において、二基の窯跡出土埴輪および窯周辺の包含層出土埴輪について、悉皆調査を行った。出土埴輪全点につき、全体写真撮影、細部写真撮影（ハケメ、突帯、透孔など）、観察、計測、採拓などを行うとともに、可能なものについては蛍光Ｘ線分析用の試料採取を行い、三辻利一氏の協力・指導のもと、蛍光Ｘ線分析を実施した。

コナベ古墳出土埴輪については、宮内庁書陵部において悉皆調査を行った。出土埴輪全点につき、全体写真撮影、細部写真撮影（ハケメ、突帯、透孔など）、観察、計測、採拓などを行った。

久津川古墳群出土埴輪については、同古墳群を構成する車塚古墳、梶塚古墳、芭蕉塚古墳、山道東古墳、青塚古墳などから出土した埴輪を対象として、資料の全容の把握に努めた。その結果、現位置で出土した総数400点を超える円筒埴輪について基礎調査をほぼ終えることができた。

青塚古墳出土埴輪については、京都府教育委員会が調査した円筒埴輪および形象埴輪の全点を対象として、資料調査を実施した。出土埴輪全点につき、全体写真撮影、細部写真撮影（ハケメ、突帯、透孔など）、観察、計測、採拓などを行うとともに、可能なものについては蛍光Ｘ線分析用の試料採取を行い、三辻利一氏の協力・指導のもと、蛍光Ｘ線分析を実施した。

梶塚古墳については、城陽市教育委員会が調査した円筒埴輪全点を対象として、資料調査を実施した。出土埴輪全点につき、全体写真撮影、細部写真撮影（ハケメ、突帯、透孔など）、観察、計測、採拓などを行うとともに、可能なものについては蛍光Ｘ線分析用の試料採取を行い、三辻利一氏の協力・指導のもと、蛍光Ｘ線分析を実施した。実測図作成も進めており、全点の半数程度が終了している。

このほか、車塚古墳出土埴輪、芭蕉塚古墳出土埴輪、山道東古墳出土埴輪についても、一部資料調査に着手している。具体的な調査内容としては、出土埴輪全点につき、全体写真撮影、細部写真撮影（ハケメ、突帯、透孔など）、観察、計測、採拓などを行うとともに、可能なものについては蛍光Ｘ線分析用の試料採取を行い、三辻利一氏の協力・指導のもと、蛍光Ｘ線分析を実施している。

このほか、久津川古墳群の近隣地域の関連資料として、京都府埋蔵文化財調査研究センターが調査した芝山遺跡出土埴輪棺の調査研究を行い、全体写真撮影、細部写真撮影（ハケメ、突帯、透孔など）、観察を行うとともに、可能なものについては蛍光Ｘ線分析用の試料採取を行い、三辻利一氏の協力・指導のもと、蛍光Ｘ線分析を実施した。

また城陽市内に所在する梅の子塚１号墳および同２号墳出土埴輪の調査研究も実施している。全体写真撮影、細部写真撮影（ハケメ、突帯、透孔など）、観察などを行うとともに、可能なものについては蛍光Ｘ線分析用の試料採取を行い、三辻利一氏の協力・指導のもと、蛍光Ｘ線分析を実施した。

さらに、宇治市に所在する金比羅山古墳出土埴輪についても、京都府立山城郷土資料館の協力を得て、資料調査を実施している。全体写真撮影、細部写真撮影（ハケメ、突帯、透孔など）、観察、計測などを行うとともに、可能なものについては蛍光Ｘ線分析用の試料採取を行い、三辻利一氏の協力・指導のもと、蛍光Ｘ線分析を実施した。

また、金比羅山古墳出土埴輪の関連調査として、奈良県立橿原考古学研究所において、一本松２号墳出土円筒棺および三吉３号墳出土円筒棺の資料調査を実施した。

以上の調査研究を通じて、古墳時代中期・

畿内中枢地域における埴輪生産組織の実態を解明するために不可欠な基礎調査および基礎分析を行うことができたと考えている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 17 件）

①犬木努「青塚古墳の埴輪生産組織（予察）」『城陽市埋蔵文化財調査報告書』第 75 集、pp.19-28、2018 年、査読無し

②犬木努「日本における古墳葬送儀礼と埴輪―埴輪配置の〈空間論〉と〈構造論〉―」『日韓 埴輪の比較・検討と倭系古墳出現の歴史的背景』pp.23-40、2018 年、査読無し

③犬木努「金山里方台形古墳出土埴輪群のハケメ分析―日本におけるハケメ分析の現状と課題を踏まえて―」『日韓 埴輪の比較・検討と倭系古墳出現の歴史的背景』pp.91-107、2018 年、査読無し

④三辻利一・犬木努「原材料岩石、素材粘土と製品土器」『志学台考古』第 18 号、pp.1-12、2018 年、査読無し

⑤三辻利一・犬木努「土器の産地問題研究における分析化学―不均質系の分析化学―」『志学台考古』第 18 号、pp.13-23、2018 年、査読無し

⑥三辻利一・犬木努「京都府向日市域出土須恵器・埴輪の蛍光 X 線分析―物集女車塚古墳および周辺出土品から―」『志学台考古』第 18 号、pp.24-40、2018 年、査読無し

⑦三辻利一・犬木努「和歌山県内出土埴輪の蛍光 X 線分析」『和歌山県文化財センター年報 2016』pp.19-30、2017 年、査読無し

⑧犬木努「青塚古墳出土の円筒埴輪」『城陽市埋蔵文化財調査報告書』第 72 集、pp.5-21、2017 年、査読無し

⑨犬木努「埴輪研究の課題―播磨の埴輪を考える―」『第 17 回播磨考古学研究集会の記録 播磨の埴輪』pp.1-8、2017 年、査読無し

⑩三辻利一・犬木努「平井遺跡出土埴輪の蛍光 X 線分析」『平井遺跡、平井Ⅱ遺跡―第二阪和国道建設に伴う発掘調査報告書―』pp.184-195、2017 年、査読無し

⑫三辻利一・犬木努「土器胎土に見られる地域差―窯跡出土遺物の化学特性および後背地の花崗岩類の化学特性―」『志学台考古』第 17 号、pp.1-24、2017 年、査読無し

⑬三辻利一・犬木努「野中古墳出土初期須恵器の蛍光 X 線分析」『志学台考古』第 17 号、pp.25-35、2017 年、査読無し

⑭犬木努「保渡田八幡塚古墳の形象埴輪配置―「今城塚類型」との対比から―」『塚口義信博士古稀記念 日本古代学論叢』pp.21-30、2016 年、査読無し

⑮三辻利一・犬木努・近藤麻美「青塚古墳出土埴輪の蛍光 X 線分析」『城陽市埋蔵文化財調査報告書』第 70 集、pp.15-25、2016 年、査読無し

⑯犬木努「埴輪のトポロジー―埴輪が現示する存在／所在／関係性―」『論集 他界観』大阪大谷大学歴史文化学科調査研究報告書第２冊、pp.1-40、2016 年、査読無し

⑰三辻利一・犬木努・近藤麻美「城陽市域の古墳出土埴輪の蛍光 X 線分析―赤塚古墳・山道古墳・横道遺跡・正道遺跡・芝ケ原遺跡―」『城陽市埋蔵文化財調査報告書』第 69 集、pp.23-26、2015 年、査読無し

〔学会発表〕（計３件）
①犬木努「日本における古墳葬送儀礼と埴輪―埴輪配置の〈空間論〉と〈構造論〉―」；第３回古代韓日古墳研究交流会、2018 年

②犬木努「金山里方台形古墳出土埴輪群のハケメ分析―日本におけるハケメ分析の現状と課題を踏まえて―」；第３回古代韓日古墳研究交流会、2018 年

③犬木努「播磨の埴輪を考える」；第 17 回播磨考古学研究集会、2016 年

〔図書〕（計２件）
①犬木努（編）『古墳時代中期・畿内中枢地域における埴輪生産組織論の新視角と再構築』平成 26～29 年度科学研究費補助金 基盤研究（C）研究成果報告書、大阪大谷大学、2018 年、総頁数 66 頁（執筆箇所 pp.1-66）

②犬木努・今井澄子・田中健一（編）『論集 他界観』大阪大谷大学歴史文化学科調査研究報告書第２冊、pp.1-40、2016 年、総頁数 116 頁（執筆箇所 pp.1-40）

６．研究組織
(1)研究代表者
犬木　努（INUKI　Tsutomu）
大阪大谷大学・文学部・教授
研究者番号：40270417

(2)連携研究者
廣瀬　覚（HIROSE Satoru）
独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化

財研究所・都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）・主任研究員
研究者番号：30443576

(3)研究協力者
・三辻　利一（MITSUJI Toshikazu）
奈良教育大学名誉教授・大阪大谷大学元教授
・近藤　麻美（KONDO Mami）
大阪大谷大学大学院文学研究科研修生